

各関係機関の長 殿

福岡県病虫害防除所長

病虫害発生予察情報について（送付）

このことについて、病虫害発生予報第12号を発表したので送付します。

平成15年度病虫害発生予報第12号
主要病虫害の発生現況及び予報の概要

【野菜】

作物名	病虫害名	発生現況 (平年比)	発生予想 (平年比)
冬春トマト	葉かび病 灰色かび病 菌核病	多い 並 並	多い 並 並
冬春ナス	すすかび病 うどんこ病 灰色かび病	並 やや多い 並	並 並 並
冬春キュウリ	褐斑病 べと病 うどんこ病 灰色かび病	多い 並 並 やや少ない	多い 並 並 並
イチゴ	うどんこ病 灰色かび病 ハダニ類 アブラムシ類	並 並 やや多い やや多い	並 並 やや多い やや多い
野菜共通	コナジラミ類 ミナミキイロアザミウマ	やや少ない やや少ない	並 並

【野菜】

1 トマトの葉かび病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年より多い

(2) 予報の根拠

ア 2月5半旬調査の結果、発病葉率は10.8%（平年：2.6%、前年：8.0%）であった。多発しているほ場も一部で見られる。

- イ 気象予報では、3月の平均気温及び降水量は平年並と予想されている。
- (3) 防除上注意すべき事項
- ア ハウスの換気を行い、多湿にならないよう管理する。
- イ 草勢が低下すると発病が助長されるので、適正な肥培管理を行う。
- ウ 病勢が進展すると防除が困難となるので、発病初期の防除を徹底する。
- エ 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
- オ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

2 ナスのすすかび病

- (1) 予報の内容
発生量：平年・前年並
- (2) 予報の根拠
- ア 2月5半旬調査の結果、発病葉率は27.5%（平年：25.7%、前年：22.0%）であった。
- イ 気象予報では、3月の平均気温及び降水量は平年並と予想されている。
- (3) 防除上注意すべき事項
- ア ハウスの換気を行い、多湿にならないよう管理する。
- イ 草勢が低下すると発病が助長されるので、着果量調整や、適正な肥培管理を行う。
- ウ 病勢が進展すると防除が困難となるので、発病初期の防除を徹底する
- エ 発病葉はできるだけ除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
- オ 本病の分生胞子は、曇天・雨天時に形成され、晴天時に飛散するので曇天・雨天後の晴天日に薬剤散布すると効果が高い。
- カ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

3 キュウリの褐斑病

- (1) 予報の内容
発生量：平年・前年より多い
- (2) 予報の根拠
- ア 2月5半旬調査の結果、発病葉率は7.1%（平年：0.9%、前年：1.3%）であった。
- イ 気象予報では、3月の平均気温及び降水量は平年並と予想されている。
- (3) 防除上注意すべき事項
- ア ハウスの換気を行い、多湿にならないよう管理する。
- イ 草勢が低下すると発病が助長されるので、適正な肥培管理を行う。
- ウ 病勢が進展すると防除が困難となるので、発病初期の防除を徹底する。
- エ 発病葉はできるだけ除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
- オ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

4 イチゴのアブラムシ

- (1) 予報の内容
発生量：平年・前年よりやや多い
- (2) 予報の根拠
- ア 2月5半旬調査の結果、寄生葉率は4.7%（平年：2.0%、前年：2.4%）であった。
- イ 気象予報では、3月の平均気温及び降水量は平年並と予想されている。
- (3) 防除上注意すべき事項

- ア 多発生後は防除が困難となるので、早期発見、早期防除に努める。
- イ 寄生株から、かぎ取った下葉や除草した雑草は、ほ場周辺に放置せず速やかにビニル袋等に入れて密閉し処分する。
- ウ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

5 イチゴのハダニ類（平成16年2月3日発表の注意報第3号参照）

（1）予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多い

（2）予報の根拠

ア 2月5半旬調査の結果、寄生株率は5.0%（平年：2.7%、前年：3.8%）であった。

イ 気象予報では、3月の平均気温及び降水量は平年並と予想されている。

（3）防除上注意すべき事項

ア 厳寒期は、ハダニ類の増加は緩慢となるが、温度が上がる2月頃から急激に発生密度が高くなるので、発生状況に注意する。

イ 多発生後は防除が困難となるので、早期発見、早期防除に努める。

ウ イチゴ以外の植物にも寄生するのでほ場内の雑草は除草する。

エ 寄生株から、かぎ取った下葉や除草した雑草は、ほ場周辺に放置せず速やかにビニル袋等に入れて密閉し処分する。

オ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

【茶】

作物名	病虫害名	発生現況 (平年比)	発生予想 (平年比)
茶	カンザワハダニ	やや多い	やや多い

【茶】

1 カンザワハダニ

(1) 予報の内容

ア 発生時期：平年・前年並

イ 発生量：平年よりやや多く、前年より多い

(2) 予報の根拠

ア 2月5半旬調査の結果、茶樹表層の寄生葉率は1.8%（平年：1.8%、前年：0.7%）、50葉当たり寄生虫数は平均1.6頭（平年：2.8頭、前年：0.4頭）であった。また、茶樹表層の発生ほ場率は50.0%で、過去5か年間では最も高い。

イ 裾葉の寄生葉率は5.3%（前年：0.2%）、50葉当たり寄生虫数は平均9.5頭（前年：0.1頭）であった。裾葉の発生ほ場率は91.7%と非常に高い。

ウ 茶樹表層及び裾葉ともに越冬ダニの産卵が認められ、裾葉ではふ化幼虫の発生も認められた。

エ 気象予報では、3月の平均気温及び降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 産卵数が増加する前（平坦地域では3月5～15日頃、山間地域では3月15～25日頃）に防除を徹底する。

3月の気象予報（1か月）

（予報期間 2月28日～3月27日）

2004年 2月27日

福岡管区気象台発表

【概要】

向こう1か月の平均気温は平年並、降水量は平年並、日照時間は平年並か少ない可能性が大きいでしょう。

九州北部地方では、天気は数日の周期で変わるでしょう。

【要素別確率】

（単位％）

要素	低い （少ない）	平年並	高い （多い）
気温	20	50	30
降水量	30	40	30
日照時間	40	40	20

- < 1週目の予報 > 2月28日～3月5日
この期間の平均気温は、平年並か低い可能性が大きいでしょう。
- < 2週目の予報 > 3月6日～3月12日
この期間の平均気温は、平年並か高い可能性が大きいでしょう。
- < 3～4週目の予報 > 3月13日～3月26日
この期間の平均気温は、平年並の可能性が大きいでしょう。

参考資料

福岡における平年値

向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間と1週目、2週目、3～4週目の平均気温

向こう1か月			平均気温（ ）		
平均気温（ ）	降水量 (mm)	日照時間 (h)	1週目	2週目	3 - 4週目
9.5	100.3	140.6	8.1	9.0	10.3

病虫害防除所では、病虫害の発生状況と防除について、ホームページでお知らせしています。アドレス及び番号は下記の通りです。

ホームページアドレス
電子メールアドレス

<http://www.jpnpn.ne.jp/fukuoka>
kfok0301@sp.jpnpn.ne.jp